

---

# 仮面ライダーハンター

柳雨

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

仮面ライダーハンター

### 【Nコード】

N8596H

### 【作者名】

柳雨

### 【あらすじ】

- 200X年…街には不気味な怪人が巣くっていた。しかしそんな怪人を倒すというヒーローの噂が流れていた…都市伝説となった仮面の狩人…その名は、仮面ライダーハンター！。

## （前書き）

初めまして。私、柳雨の初投稿となりますオリジナルライダー小説です。仮面ライダーが特に好きな故に書きました。拙い文かもしれませんが是非、お楽しみください。

- 君は噂を信じるタチかい？ 信憑性のあるもの、無いもの…種類は様々…。

- まあ大概は後者だ。損したり、痛い目を見るのがオチよ。

- しかし、この噂だけは信じといたら損は無いぜ？

- 街中に巣くうという謎の怪物を退治している、都市伝説的な噂のヒーロー…。

- その名は…。

- 2000X年

「やばい！ バイトに遅刻するわー！」

- 街中をスクーターで走り回り、ファミレスのバイトへ急ぐラフな服装の少女・西島礼。にしじま・れい

- 一秒でも早く、前へ！ 前へ！ 前へ！…それしか頭に無かった。

- だが礼のスクーターはどうしても止まらざるを得なくなった…何故なら。

「何で今日に限ってこんなに混んでるのよー!？」

「その道路は普段は礼が活用しているところで、夕方近くなっても滅多に混むことは無い場所だった…」

「だが現在…礼の目の前に広がる光景、午前中だというのに嘘の様に混んでいた。」

「しかも信号はとくに青なのに車は全て動く気配すら見せない。」

「否…「動かなかった」。」

「どうなってるのよ？」

「礼はさすがに不審に思ったか…スクーターで移動しながら何気なく車を覗いて見た…」

「誰もいない…?」

「車を動かす人間がどの車にもいなかった。礼は不思議がった。」

「その時…」

「ギヤアアアアッ!!」

「ひっ!？」

「突如、前の方で男性の悲鳴があがる…」

・礼は前を見てみるとそこには何者かによって車から引きずり出される中年男性がいた…。

・そして男性を引きずり出すものは異様な姿をした人間…「怪人」だった。

「ギギ…」

・蜘蛛を人型にした様な化け物…。

「た…助けて！ウゲ…。」

・その化け物は信じられないことに…男性を一瞬で食らった…。  
・怪人は突然男性の身体を「煙」の様に変えた後に、吸い込んだ…。

「もしかして…車に誰もいないのは…アイツが…？」

・礼はゾツとした。どういう原理かは知らないがあの化け物は人間を「煙」にして食べる…車に人間の遺体がないのも納得出来る…。

「ギギ…」

「ひあっ！」

・礼は怪人がこちらに気付いたのを見て小さい悲鳴をあげた。

・スクーターを動かそうにも身体が動いてくれない…礼は死を覚悟した…。

「オラアッ！！！」

「ギギヤアッ!？」

・だが、突然バイクに乗った男が割って入り、礼のピンチを救う。

「早く逃げる!」

「で、でも…アンタは？」

「安心しろ…狩人が獲物に殺られる様なヘマはしない。」

・その男の眼は目の前の「獲物」を捉えて離さない。

「ハッ…!随分ザコそうな「インプ」だな…まあ、いいか。」

「ギチギチ…。」

・男がインプと呼んだ蜘蛛の怪物…スパイダーインプは自分が侮辱されたような気がしていきり立つ。

「よし…やろうぜ?狩人と獲物の狩るか狩られるかの殺し合いを!」

・その男…かがり・リョウ火狩猟はバイクに積んだケースからベルトの様なものを出して腰に巻く。

「変身。」

・瞬時に猟はその姿を変えた。

・全身を覆う黒い下地のスーツ、チーターを彷彿とさせる金の鎧と

## 仮面

・両腕には鋭利なカギ爪といった物騒な武装があった。

「あれは確か…仮面…仮面…なんだっけ？」

・礼はその姿を見て何かを思い出すように呟く…噂で聞いたことがある都市伝説のヒーロー…その名は確か…。

「よく解ったな？そうだ…オレが噂の仮面ライダーハンターさ。トリヤツ…！」

「ヒギヤアアアッ！？」

・ハンターは素早く動き出し、スパイダーインプにいきなり切り掛かった。

・切られた箇所から紫色の血液が噴き出す。

「グルアッ…！」

「どこを狙ってるつもりだ？ザコ虫が…シャッ！」

「ガ！ギエ！？グゲッ…。」

・今度は両腕のカギ爪「スラッシュクロウ」で同時に突き刺す。スパイダーインプは呻き声をあげてもがき苦しむ。

「…ゴエエエ…。」

・やがて口から紫色の血液を吐き、その場に片膝をついて動かなくなる…。

「トドメだ」

・ハンターはベルトのバックルにカードキーのようなものを挿し込む

「ハアアアッ!」

「ウギヤアアッ!」

・ハンターのスラッシュクロウが赤熱化、一気に連続でスパイダーインプを切り刻む。

「ギヤアアアッ!」

・ついにスパイダーインプは断末魔の叫びをあげて爆散…消滅した。

・これがハンターの必殺技「バーストラッシュ」である。

・スパイダーインプを倒し、変身を解いた獺はバイクに乗って立ち去ろうとした。

「あ…あの…」

「？」

-顔を赤くした礼が獺に近寄る。

「助けてくれて…ありがとう。仮面ライダー。」

「別に…ついでに助けてやったまでさ。んじゃ、あばよ。」

「あ…。」

-獺はバイクのエンジンをかけて瞬く間に遠くへ走り去って行った…。

-噂のヒーロー、仮面ライダーハンターこと火狩獺…次の獲物を求めて街さすらい、更なる都市伝説を築いていくのだった…。

（後書き）

いかがでしたか？こんな感じで怪人を狩り続けるヒーローは今日もどこかで誰かの噂になってることでしょう。最後まで読んでいただき、ありがとうございます！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8596h/>

---

仮面ライダーハンター

2010年10月11日01時14分発行